

あいことば 上宇部 2026

～ 「あい」「ことば」を大切にする学校 ～

「しあわせの連さ」

11.18 NO-30

1年生の芋ほり

1年生では、6月の芋の苗植えから先日の収穫までの一連の学習を生活科で行っています。こうした学習では、畑の準備や管理を教員が担うことが多く、相当な時間と労力を必要とするため、実施に向けたハードルの一つにもなります。

そうした中、本校では、畑の準備から芋の生育管理、収穫に向けた準備まで、地域の皆様の力強い支援があり、この学習活動が実現しています。

～芋の収穫でのエピソード～

子どもたちが運搬した芋のつる







作業後に地域の方が談笑中

○10月頃から、収穫の時期をいつにするかについて、地域の方々が何度も話し合いを重ねておられました。1年生担任とも相談しながら、生育状況や天候を踏まえて、11月13日の収穫が決まりました。校地内の学童保育でも同様に芋を育てていたため、その調整についても地域の方々が担ってくださいました。

○収穫日の前には、「つるが残っていると収穫に時間がかかり、授業時間内に終わらないかもしれない」と考え、地域の方々が事前につるを取り除くことにしました。その情報を担任とも共有していたため、作業のタイミングに合わせて1年生の子どもたちが畑にやって来て、つる運びを手伝いました。地域任せにするのではなく、地域の方と担任が連携して学びを支えている姿が見られました。

○収穫当日には、地域の方々が早くから畑に来られ、子どもたちが素手でも収穫しやすいよう、芋の周りをあらかじめ掘り起こしてくださっていました。「誰もが収穫の楽しさを実感できるように」という思いをもちながら、楽しそうに作業されていました。

○収穫後には、地域の方々が畑の近くに腰を下ろし、学校のことや地域のこと、時には何気ない世間話にも花を咲かせておられました。その姿を見ていると、芋づくりは子どもたちの学びを支えるだけでなく、人と人とをつなぐ温かな交流の場にもなっていることを感じました。

地域の皆様の支えがあってこそ実現できる学習活動です。子どもたちは芋を植え、育ちを見守り、収穫するという貴重な体験を通して、多くのことを学んでいます。そして、その学びの背景には、いつも子どもたちを思い支えてくださる地域の皆様の存在があります。改めて感謝申し上げます。